

令和6年度 第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和7年3月7日(金) 15:00~16:30

2 場所 本館3階 会議室

3 次第

開会(司会 副校長、記録 藤本)

(1) 校長挨拶

卒業式を終え、年度末の成績処理期間になっている。

学校評価について忌憚のないご意見をいただきたい。

(2) 出席者(敬称略)

《学校運営協議会委員》

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ・高橋 里幸(本校同窓会理事長) | ・柏木 雅彦(茅ヶ崎養護学校長) |
| ・羽場 由佳子(松林中学校長) | ・笥 智子(本町第一自治会副会長) |
| 欠席・北島 栄二(国際医療福祉大学学科長) | ・廣瀬 香夜乃(全日制 PTA 会長) |
| ・藤城 真由美(定時制 PTA 会長) | ・上原 幸作(TOTO 茅ヶ崎工場長) |

《本校職員》

- ・校長 副校長 全日制教頭 定時制教頭 事務長
- ・総括教諭 全日制4名、定時制2名

(3) 令和6年度学校評価報告書(実施結果)について

<全日制>

学習支援①授業評価の分析から「授業の中で、できるようになったことを実感することができた」と回答した生徒の割合が80%を超えた。

②ICTを活用し主体的に学ぶ意欲を向上させた数学の授業については他教科と情報共有をし、学校全体の授業力向上につなげていきたい。

生徒支援①年間6回の登校指導を行い、管理職にも状況を見ていただき交通安全の情報共有を行った。計画的な指導以外にも不定期に駐輪指導等を行ったことや、1月下旬から学年末試験までの期間に3学年教員中心に見守り指導を行ったことも事故防止につながった。

②サポートドックを活用し、気になる生徒に対してSC、SSWとのプッシュ面談を実施。男女間のDVや、SNS上のトラブルが増加してきた。

生徒会活動支援①行事はコロナ禍が開け、通常に戻ってきた。部活動が盛んだが、教職員の働き方改革も課題になっている。土日両日部活動を行うことは難しくなっている。

進路支援①12月に大学専門学校、防衛職業関係者総勢103団体を呼んでの説明会を開催した。一人

4 コマ説明を聞くことができ、刺激を受けたようだ。1月の進路希望調査で「未定」と答えた生徒が減った。

②専門学校希望者が微増。次のステップは大学との違いを理解し選択肢を広げるように支援することである。

地域連携①保護者と生徒が協力して地域清掃を実施したり、学校行事への協力をしたりした。

②ホームページアクセス数が増加した。中学生はネット検索で学校を選ぶようになってきている。

管理運営①チャット機能を積極的に活用し、情報共有を行うことができた。

②打ち合わせや会議のペーパーレス化を推進する。

③情報機器の適切な管理が課題である。履行方法を効率的に行う体制を構築する。

<定時制>

教育課程／学習指導

①電子黒板を活用して、生徒も書き込みながら主体的に学ぶことができた。

②AIアプリのJEMINIを使って対話練習を行わせた。

③学習レベルの差が大きいため、TTを有効活用し、個に応じた学習支援を行うことができた。

生徒指導／支援

①SC、SSWを積極的に活用し、予約で埋まっている状況。教職員も生徒に寄り添うようにしている。

②自転車通学の生徒にヘルメットの着用を指導してきたが、着用する生徒がほとんどいなかった。

進路指導／支援

①4年生で卒業1名、3年生で卒業4名。会社見学やインターンシップなど生徒自身で選び、行動することができた。卒業生や人事担当者を招いてのガイダンスを実施した。

地域等との協力

①公共の交通機関を利用したことの少ない生徒もいるため、校外行事を通して経験を積めるように企画している。参加率は8割程度。卒業までに少しでも行事に参加できるようになればいいと、時間をかけて指導をしている。

②地域資源を活用し、安心・安全に学べる学校づくりを目指していきたい。

学校管理／学校運営

①令和7年度入学生で募集停止となるため、教職員の定数減が今後考えられる。非正規教員の増加に伴い、防災対策や不審者対策など生徒の安全管理に不安がある。

②校内環境整備・美化活動に力を入れた。学習環境の整備は学習意欲向上につながった。ただ、窓の清掃が不十分な点が気になる。

(4) 質疑応答

- ・ 報告書の書式を変更し、より具体的な結果報告はできないか（同窓会高橋）
→ 書式の指定があり、難しい。別添資料を準備するなど今後工夫する。
- ・ サポートドックの効果はあったか（同窓会高橋）
→ 中間層の課題を抽出し、家庭や友人関係など心の不安を見つけられた。
生徒全員との面談の機会、SC・SSW とのプッシュ面談を行うことができた。

(5) 学校評価および今後の学校経営に関する助言

<全日制>

- ① 以前と生徒の様子も変わり、落ち着いて穏やかな生徒が多い印象
- ② 一人一台端末の活用の中で、「情報の選び方」を教えることが次の段階として課題がある
モニターを通して画像を写し出すことで学習意欲が向上している。
- ③ 共生社会の実現は時間のかかることである。卒業後、社会とのかかわりの中で学んだことが活かされてはじめて行動できようになる。

<定時制について>

- ① 在校生が少ないので、定時制はまだ存在しているのかと思っていた。生徒がおとなしく、少人数で穏やかに過ごしているのだろうと思った。
- ② 課題があったり、コミュニケーションがうまくとれない生徒がいたりするので、少人数の利点を生かし、今後も丁寧な生徒対応をしていくとよい。
- ③ 多様な生徒がいることを踏まえた一人一人に応じた教育計画が立てられている。
- ④ 自立は依存しないことを増やすのではなく、依存する場所を増やすことも自立の一つ。
- ⑤ 閉校に向けて、非正規雇用者が増えていくことが気がかりである。

(6) その他

茅ヶ崎高校へ期待すること

- ① 地域への影響が大きいので、これからも落ち着いた学校であって欲しい。
- ② 部活動の中高連携がよりできることを望んでいる。